

■緑のしつらいの修景基準の解説

緑のしつらい1

■基準

植栽は建物・塀と一体的に配置してまちなみに趣を与えるよう工夫する。

塀越しに植栽が頭をのぞかせていたり、植栽で建物が見え隠れしている、といった、建物・塀・門と植栽を巧妙に配置・デザインして、通りを歩く人が豊かな気分になれる、住吉らしい洗練したまちなみ文化を演出しましょう。

また実がなったり、花が咲くような樹種はまちなみに四季を演出します。住吉に見られる特徴ある樹種や、かきつばた苑や車返しの桜（しだれ桜）、ウツギ（卯の花）といった謂われのある樹種をとり入れるのもよいでしょう。



①通りを歩くと庭木が天空に見えるような植え方



③開放された前庭の脇に並べて植栽して通りからよく見える植え方



②主屋の目隠しとなると同時に通りからも自然を感じられる植え方

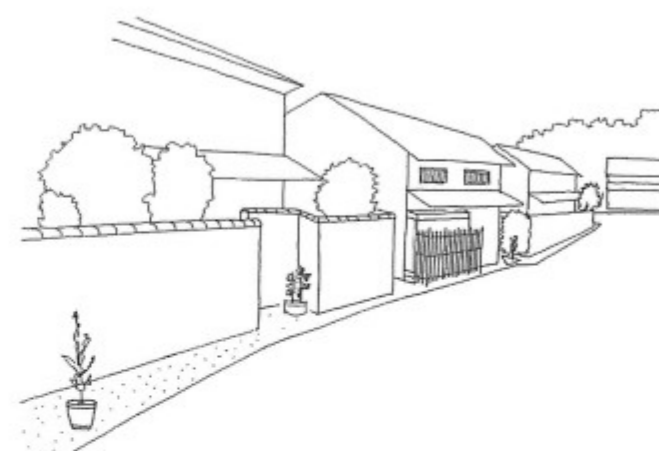
●住吉に見られる樹種

樹種	樹木名
高木の広葉樹	エノキ、クスノキ、センダン、ムク
実のなる広葉樹	カクレミノ、モチノキ、モッコク、ヒイラギナンテン
花や香りを楽しむ樹種	ウツギ、ヒイラギモクセイ

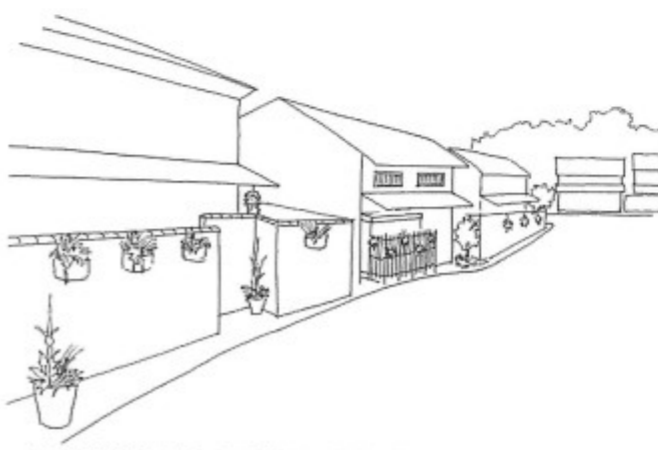
●植栽の技法例



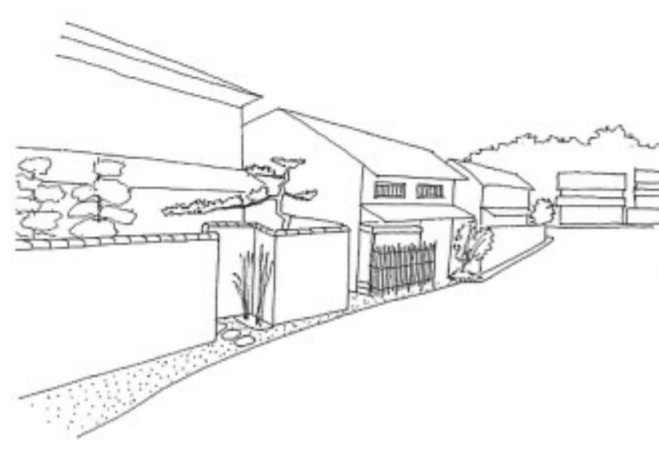
・建物、塀、植栽の配置を工夫して、互いにまちなみを引き立てています。
・通りの曲がり角や、隙間を植栽の場所に活かしています。



・突き当たりに見える樹林を借景と考え、まちぐるみで緑の眺望を活かします。
・そして、通り沿いに植栽を施すことで、まちなみに奥行きや連続感が出ます。



・伝統的な様式のまちなみと新しい感覚の植栽が調和した例です。お隣どうしが意識しあい、リズム感や連なりが感じられるまちなみを創っています。



・門の上（冠木門）や入隅に植栽をほどこすなどの方法は、空間を引き立てる庭づくりの伝統的な知恵です。

緑のしつらい2

■基準

敷地内にある古木の保全を心がける。

歴史や謂われのある樹木の存在は、それ自体が文化的な存在といえます。建物や塀もしくは駐車場をつくる場合には、敷地内にある古木（こぼく）を保全し、建物の隙間や塀越しにあちこちから見えるという住吉らしい緑のまちなみをつくりましょう。

ことば	言葉の意味
古木 (こぼく)	昔に植えられ、時代とともに大きく成長した樹木です。緑資源としての価値と、その木への思い出や場所の記憶といった意味で、かけがえのない重要な存在となっています。
保存木 (ほぞんぼく)	建物の着工前の、敷地内にある樹木を既存木といい、このうち残す樹木のことを保存木、移植するものを移植木といいます。

